

「水琴窟」収録CD 被災地ボランティアに

癒やしの音 支える力に

東日本大震災の被災地で支援活動が続けるボランティアたちに癒やしを届けようと、京都市右京区鳴滝泉谷町の西寿寺が、境内にある水琴窟の音を収録したCDをボランティア団体に送った。村井定心住職(55)が知り合いから「被災者の悲しみに向き合うボランティアも無力感や倦怠感を抱えている」との声を聞いたためだ。村井住職は「終わりのない悲しみに向き合い続ける人の力になれば」と話している。

右京の西寿寺住職

西寿寺は、江戸初期に袋中上人が開山した。その際に泉が湧き出たと伝わり、2002年に水琴窟を二つ制作。したたり落ちる水の音色を収めたCD「泉のささやきも作の会」(東京都)を通じ、被災後は、犠牲者の遺族に遺骨や遺品を入れて手元供養できる人形「花地蔵」を手作りし、被災地で活動する「ひとさじの会」(東京都)を通じて、被災者に贈ってきた。

「心の負担を和らげたい」

で送っていた。その際、同会から「被災者のつらい思いを聞き、重荷を感じる支援員もいる」「できることをしたいが、応えられない無力感を感じる」など、支援者側の実情を聞いた。

村井住職は、先代の住職を亡くしたときに深い悲しみに襲われ、その後、身近な人を亡くして悲嘆に暮れる人の支援「グリーフケア」に関わってきた経験がある。寺を空けられないため被災地には赴けないが、水琴窟の澄んだ音で心の負担を和らげたいと考えた。

手元にあったCD約50枚を同会に送った。同会は仮設住宅の人々やその支援員に聞いてもらうことにしている。境内の五つの水琴窟の音を抽出して新作も作り、被災地や支援者に送る予定だ。

村井住職は「被災地に足を運べない分、支援者には感謝の気持ちがある。『サポーターとしての役割に立てるならうれしい』と思うを込める。」(山田修裕)



柔らかに澄んだ音が響く水琴窟。音を録音したCDを被災地の支援者に送る(京都市右京区鳴滝泉谷町・西寿寺)

京都新聞

夕刊

京都新聞社
The Kyoto Shimbun Co., Ltd.
© 京都新聞社 2012年

発行所 〒604-8577
京都市中京区烏丸通夷川上ル
直通 075(241)
社会報道部 6119 運動部 6129
文化報道部 5429 写真映像部 6135
地域報道部 6117 読者応答室 5421
番号案内 総合受付 075(241)5430
ご購読・配達は 0120-464-468
滋賀本社 077(523)3131